

広報かなぎ

平成17年2月号 No.466



鬼は外!!



福は内!!



鬼は、逃げたかな？

2月3日の節分の日、金木幼稚園で鬼を追い払い、元気に！。

町の花



さくら

町の鳥



ひばり

町の木



ひば

音楽観賞で 心と体を健やかに

2月9日、金木幼稚園こども赤十字42名と金木女声合唱団『チェリーコール』14名の皆さんが、公立金木病院で、慰問コンサートを開催しました。

会場となった1階ロビーには、患者さんや病院職員など多くの観衆が集まり、鼓笛演奏と歌に耳を傾け、心を和ませていました。



豪雪対策本部設置

2月4日、今年の積雪深が110cmを超えたため、町役場に町豪雪対策本部が設置され、除排雪の出動体制を整えました。

鳴海町長が対策本部長となり、冬期間における町内道路の交通確保と町民生活の安定を図ることになります。



青森県青年農業士に 三名が認定される

古川大晴さん

濱田浩平さん

吉田郁世さん

平成十六年度青森県青年農業士に、古川大晴さん（喜良市）、濱田浩平さん（嘉瀬）、吉田郁世さん（蒔田）の三人が認定されました。

青年農業士の認定期間は、四十歳に達した年度の末日までで、今後は、地域農業におけるリーダー的活躍や農村の振興活動への参加協力など多くの役割を実践していきます。

◆古川大晴さん

これから就農する若者に対して、これまで農業に従事してきた、私が強く感じたことを指導していきたい。

◆濱田浩平さん

自分はまだまだ勉強不足ではありますが、幅広くいろんな人とふれあい、

自分自身も勉強し、農業について感じていることを先輩へ伝えたい。

◆吉田郁世さん

自分で作った農作物へのこだわり、そして消費者が求めている物の探求と地域の活性化を目標として、自分の目指す農業に一步一步進みたい。



青年農業士

（右）古川大晴さん

（中）濱田浩平さん

（左）吉田郁世さん

平成16年12月10日

国重要文化財指定

『旧津島家住宅』

二月十日、庄司誠県文化財保護課長が役場を訪れ、国重要文化財に指定された旧津島家住宅の『重要文化財指定書』を鳴海町長に授与しました。

明治四十年に建てられた旧津島家は、近代建築の代表的技法と精巧さ、ち密な技術が駆使された住宅建築として高く評価され、かけがえのない貴重な財産として、主家や文庫蔵、中の蔵など六棟が認められ、国が重要文化財に指定したものです。

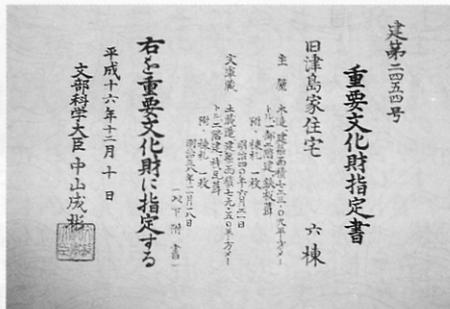
旧津島家は、西北五地区で指定されている旧平山家住宅に続いて二番目、県内では二十九番目の指定となり、三月



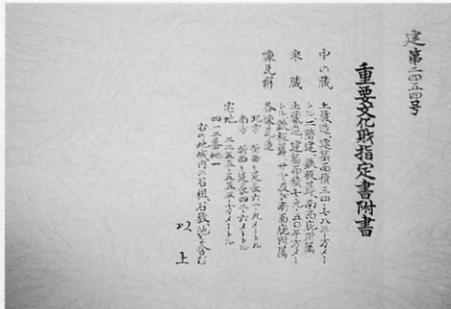
笑顔いっぱい町長

二十八日に市町村合併を控えた町にとって、大変名誉なことです。

重要文化財指定書を手にとった鳴海町長は「合併前に、斜陽館（旧津島家）が重要文化財に指定されたことは大変うれしい。とても喜ばしい。」と、感慨深く指定書を見つめていました。



認定書（表）



認定書（裏）

金木南中飛行隊

県大会総合優勝!!

第五十五回青森県中学校体育大会冬季スキー競技大会で、金木南中学校が四年ぶり九回目の総合優勝を成し遂げました。

金木南中学校が出場したスベシヤルジャンプ（純飛躍）とコンバインド（複合）の部、前半のジャンプは、競技施設の事情により、一月八日、岩手県田山スキー場で行われ、出場した三選手が表彰台に上りました。

また、コンバインド競技の後半クロスカントリイは一月十三日、青森あじやらくロスカントリイコースで競い、ジャンプ競技に引き続き、三選手が表彰台に立ち、見事総合優勝に輝きました。

スキー部員わずか三人で県大会総合優勝の偉業を達成した選手たちは一月二十日、田中美知也スキー部監督と一緒に、鳴

海町長へ総合優勝の報告に訪れました。

鳴海町長は「スポーツ精神を忘れず、これからも頑張ってください。」と選手たちに激励の言葉を贈っていました。今後の活躍を期待しています。

『がんばれ！南中飛行隊』



右から黒川友喜くん（二年）野宮優作くん（二年）平川卓弥くん（二年）田中監督

『社会を明るくする運動』

全国作文コンテスト

田中大樹くん(金木中1年)

優秀賞を受賞

見守る中、林秀和青森保護観察所長から田中大樹くんに賞状とトロフィーが贈られました。

林秀和青森保護観察所長は「田中くんの作品は、誰が読んでも感動する作品です。題材が身近なものであり、うまく表現している。」と講評が述べられ、田中くんは、「とても信じられません。今後でも困っている人を見かけたら助けてあげたい。」と受賞の感想と抱負を話してくれました。その後、田中くんは、松山久美子先生と一緒に、町役場を訪れ、鳴海町長に受賞報告をしました。

一月二十日、第五十四回『社会を明るくする運動』作文コンテスト中学生の部(応募作品数約七万点)で田中大樹くんの作文が優秀賞に選ばれ、その授与式が金木中学校の校長室で行われ、大崎校長、近隣の保護司会長ら関係者が

心のブレーキを外そう

金木中学校一年

田中大樹

ある日僕は、友達の家から帰る途中に、すぐく年をとったおばあちゃんを見かけました。重たそうな風呂敷包みを背負い、いすなようなものを杖の代わりに、少しずつ少し

ずつ歩いていました。とても疲れているようでした。そのまま通り過ぎようとしたのですが、なぜだか心にひっかかり、通り過ぎることができませんでした。そのつらそうな後ろ姿を見て「何とか助けてあげたい、いたわりたい」と思いました。

でも、僕はできませんでした。なぜかできませんでした。心の中では、声をかけて荷物を持つてあげるのがいい、と分かってはいたのに行動することができませんでした。僕は迷いました。でも、それ以上僕の心は動きませんでした。その時、僕は自分で自分の心にブレーキをかけてしまったのです。声をかける恥ずかしさ、少しの面倒臭さ、そして何より、勇気のなさ、これらが僕の心にブレーキをかけてしまったのです。僕は自分に負けてしまったのです。

僕は、昔から人に優しくすることがすごく苦手でした。すぐにカッとなって、人を傷つけてしまうことも多かったです。誰かが誰かに優しくしているのを見ると、何んである風風に優しくできるのだろう、とも思います。でも内心はそんな風に優しくできる人にならずに、人々を傷つ



けることは簡単でも、人に優しくすることは難しいことです。僕は、人に優しくする勇気がずっと欲しいと思っていました。「よし、自分を変える努力をしよう。おばあさんに声をかけよう。」ようやく決心がつきました。でも、その時にはおばあさんは遠くにいなくなっていました。僕が迷っているうちに、おばあさんは行ってしまったのです。僕の心にはモヤモヤしたものが残りました。何とも言えない後味の悪さ。まるで、心に薄暗い雲がかかってしまったかのようでした。人には悪い心と良い心があります。人に必要なのは良い心です。誰でも良い心を持っています。でも、その良い心を行動に移す勇氣も必要なのです。良い心と少しの勇氣。それらが心のブレーキを外してくれそうです。みんなとそして、自分を助けてくれるのです。いざれ誰でも人の助けを必要とする時が来ます。自分を助けてくれる人がいつもいるとは限りません。苦しなくても自分でやらなければならぬ時もあるでしょう。でも、自分の行いがやがては自分を助けてくれるのではないでしょう。悪い行いは何倍にもなって返ってきて、良い行いはほんの何割かしか返って来ないかも知れません。でも、僕は良い行いを続けたいと思っています。

冬の風物詩

地吹雪体験ツアー開幕



安全祈願祭

安全祈願祭

今年で十八回目を迎えた「地吹雪ツアー」は、首都圏方面や日系ハワイ人など個人・団体合わせて約四百名が参加し、津軽の冬の風物詩・地吹雪を体験しました。

一月二十日、金木八幡宮で行われた「地吹雪体験ツアーの安全祈願祭」は、津軽地吹雪会（代表＝角田周）の人たちや関係者、馬の金太郎十一代目が、笹木宮司による祝詞奏上と玉串奉奠、そしてお払いを受け、お神酒で乾杯し、参加者全員でツアー期間中の安全を祈願しました。

地吹雪体験ツアー

一月二十二日、関東・関西・九州地方から、十二名が参加し、地吹雪体験ツアーのオープニングが藤枝地区で行われました。最初に、角田助役が「津軽の厳しい冬を思い存分、楽しんでください。」とあいさつを述べた後、参加者たちは、地吹雪体験に着用するカンジキの履き方等の説明を受け、モンペ、カンジキ、



新雪の感触を確かめながら、一歩づつ前進

そして頭から角巻きを身にまとい、目だけをキョロキョロさせながら、いざ体験コースへスタート。
柔らかい雪で覆われた雪原を歩くツアー客は、慣れないカンジキでの歩行に戸惑い、何度も転ぶ人、転んでそのまま空を見つめる人、新雪の感触を確かめるように歩く人など、様々な光景を映し出していました。

論美さん（東京）と成田節子さん（大阪）は、それぞれ「津軽は初めてです。寒いけど体験はとても面白い。」一度は来たかったこの津軽。角巻きはとて暖かくて気持ちいいです。楽しい。」と笑顔で話してくれました。
その後、地吹雪体験ツアー参加者たちは、郷土料理のじやっぱ汁を堪能し、斜陽館の見学や津軽三味線の音色に酔いしれていました。